

# 青木繁「海の幸」記念館 友の会だより 第19号 2021(令和3)年8月1日

発行：青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

会長：嶋田博信 副会長：小谷昭 館長：小谷福哲（小谷家当主）

青木繁「海の幸」記念館 〒294-0234 千葉県館山市布良 1256 TEL&FAX：0470-28-0698

事務局：NPO 法人安房文化遺産フォーラム 〒294-0036 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

ホームページ <https://awa-ecom.jp/aoki-shigeru/> Eメール [awabunka.npo@gmail.com](mailto:awabunka.npo@gmail.com)

＊ ＊ 友の会会員募集中！ 年会費 2,000 円 郵便振替口座 00150-6-616201 青木繁「海の幸」記念館 ＊ ＊

## 【訃報】



小谷トシ様（小谷家先代当主）

島田吉廣様（当会副会長・複製画制作者）

がそれぞれ5/25, 6/27にご逝去されましたことを謹んでご報告いたします。

これまでのご尽力に感謝を捧げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



「うちの母が6つのときに、絵描きさんがおいでになってね、障子で仕切った奥の間で、何かやっている。親からは絶対に明けちゃならん、って言われていたそうなんだが、あんまり静かなものだから、母は気になって仕方ない。障子にそっと穴をあけて覗いてみると、女の人が裸で立って絵を描いてもらっていて、それはもう、鮮烈な記憶だったと言うておりました。私が母から聞いた話は、それが全部ですね」

と、この家で育った小谷トシさんは言う。

（『芸術新潮』2011.7号）

布良—画家の聖地を  
守る人びと

「印刷技術が進化する時代を経験し、一級カラーキャナー技能士という国家資格を取得しました。絵画の複製は、ただ綺麗に仕上げればよいというものではありません。作家が当時描いたであろう色を忠実に再現することが重要なのです。私も心臓に疾患を持っていて、いつ自分の人生が終わるかわからない。青木の苦悩と自分を照らし合わせながら頑張りました。何度も色校正を出して吟味し、完成させました」

と、島田吉廣さん。

（フリーペーパー『0470-』No51, 2019.5）



## 青木繁の絵手紙

1904（明治37）年8月22日、房州富崎村字布良の小谷宅に滞在中、青木繁は、友人の梅野満雄（福岡県八女郡）宛てに、4枚の絵手紙を出状しています。この地域の素晴らしさや、40種にのぼる魚貝の名前を綴り、感動し高揚した様子が描かれています。また、精力的に取り組んでいる大作『海の幸』への自信もうかがえます。現在は、長野県東御市の梅野絵画記念館が所蔵し、常設展示されています。梅野満雄の孫娘ご夫妻（佐藤修様・雅子様）が館長を務めていらっしやいましたが、今春に退任されました。お疲れ様でした。これからも末永いお付き合いのほどよろしく願いいたします。ご多幸とご健康を祈念しております。



其後、御無沙汰失礼候  
 モー此処に来て一ヶ月余になる、  
 この残暑に健康はどうか？  
 僕は海水浴で黒んぼーだよ、  
 定めて君は知つて居られるで  
 あらうがこゝは万葉にある「女良」だ、  
 すぐ近所に安房神社といふがある、  
 官幣大社で、天豊美命をまつたものだ、  
 何しろ沖は黒潮の流を受けた  
 激しい崎で上古に伝はらない  
 人間の歴史の破片が埋められて  
 居たに相違ない、  
 漁場として有名な荒つばい処だ、  
 冬になると四十里も五十里も  
 黒潮の流れを切つて  
 二月も沖に暮らして漁するそうだよ、  
 西の方の浜伝ひの隣りに  
 相の浜といふ処がある、詩的な名でないか、  
 其次ハ平沙浦（イザウラ）  
 其次ハ伊藤のハナ、其次ハ洲の崎で  
 こゝは相州の三浦半島と遥かに対して  
 東京湾の口を扼（やく）して居るのだ、  
 上図はアイドといふ処で直ぐ近所だ、  
 好い処で僕等の海水浴場だよ、

これが波のどかな平沙浦だよ、  
 浜地には瓜、西瓜杯がよく出来るよ、  
 蛤も水の中から採れるよ、  
 晴れると大島利島、シキネ島等が列を  
 そろえて、沖を十里にかすんで見える、  
 其波間を漁船が見えかくれるする、面白こと  
 それから東が根本、白浜、野崎だ、  
 僅か三里の間、野島崎には燈台がある、  
 沖では クヂラ、ヒラウラ、  
 カジキ「ハイホのこと」、  
 マクロ、フカ、キワダ、サメ、がとれる、  
 皆二十貫から百貫目位のもので釣るのだ、  
 恐しい様な荒つばい事だ、  
 灘では、トビ魚（ヤゴ）、  
 カツオ、タイ、アヂ、ヒラメ、サバ、杯だ、  
 それから岸近くでは、小アヂ、タカバ、  
 クロダイ、カレイ、ボラ、杯だ、  
 磯辺ではタコ（大きいよ）、  
 イセエビ、メチダイ、メジナ、杯だよ、

夫れから浜磯では、モクツ、モク、アラメ、  
 ワカメ、ミル、トサカメ、テングサ、メリグサ、  
 アワビ、ハマグリ、タマガヒ、トコボシ、ウニ、  
 インギンチャク、ホラノカヒ、サ、エ、アカシ、  
 ツメツケイ（ツメガヒ）、杯だ、  
 まだまだ其外に名も知らぬものが  
 倍も三倍もある、また種族が  
 同じで殊類なものもあるのだ、  
 今は少々製作中だ、大きい、  
 モデルを沢山つかつて居る、  
 いづれ東京に帰つてから  
 御覧に入れる迄は黙して居よう。

八月二十二日 満雄兄 繁

## 青木繁の没後110年目を迎えて

### ～『方寸』青木繁の追悼特集号より～

今年は青木繁の没後110年目にあたります。亡くなった1911（明治44）年7月、画友らが発行していた同人誌『方寸』最終号では、青木繁の追悼特集が組まれました。ともに布良を訪れた坂本繁二郎・森田恒友の執筆より一部を抜粋し紹介します。



#### 逝ける青木君

坂本繁二郎

小学時代の君の顔は、従順なしいものであった。鬚を生やしてからの君は、又甚だ鋭いものであった。其間は非常の差別である。世の風波をいかに甚敷くぐったかが思ひやらるのである。（中略）君が三十年の生涯は、態々悲惨なる運命を求めて演出する丈の要事を以て流星の如く現はれたものの様に許り思はれてならぬ。只の画かきとしては有り過ぎる程の才能を持って居った君は、勢ひ自ら求めて窮境に立ち上った様な勢もある。一難来る毎に愈々其上に立ち上がる君のきかぬ気は、其行途をして益々一方に計り運び去ったのかもしれない。絶えず向上の一途を進んだ君が周囲との間には常に摩擦の熱が発して居った。そして無理なところを遂に突破するのであった面も自ら常に利巧と云ふ事を恥として居った。眞の自己を進め度いとは、實に其努力の中心であったのである。（中略）昔の事を思ふと、わけなく淋しくなる。君は芸術の気分にかの不浄を容るさなかつた。君の作物を見れば分かる通り、少しも俗気と云ふものがない。作物は何より能く其人を語るのである。無理なところを押し進んだ君の周囲には、非難の声も随分あるけれども、君が中心の人格を認め得る者は、恐らく之れを怒するに吝ならざる事を信ずる。（後略）

#### 青木君が事

森田恒友

死んだ青木君の事に就ては、いろいろな事も思ひ浮ばれる。僕は彼れの死といふことが、彼れが画家といふことよりは、人間として、更に友人として、最も僕を悲しませざるを得ないのである。（中略）僕は彼れに就て可成り深く知りすぎて居た。といふ事が先づ芸術家としての彼れより先に、友人としての彼れの性格や、それに伴ふ失敗などに同情と残念との思ひが、突然の彼れの死に対して強い悲しみになるのであらう。（中略）彼の最も美しい大きな天分を證據立てて居るのは、彼れが自然の観察に最もよく現はれて居た。彼れが非常な熱を以て宇宙のあらゆるものを自己の芸術に汲み入れ得たのは、どうしても「海の幸」以前であった。（中略）僕は前にも云た様に、彼れが作物では、風景画をよいて居る。彼れが風景の小品には、彼れの固き信仰と熱の命に満ちたものがある。初めのはカラーなどに似通た自然の観方で、技巧はモット明るいものであったが、其後のものはマネーなどとも共通の処があつて、そして色に於て彼れは彼れでなくては出難い特色を持て居る。而し僕の挙ぐる処は何処までも其当時の彼れが烈しい芸術熱を通して真面目に自然を観察した跡である。（中略）彼れの眼にはモデルの体からまる線や、肉のたわみなどが、此上なき造物主の下した神秘の賜と現じた點に於て、彼れは画かきとして、図抜けた信仰を固く持て居たのが、自ら僕との間に親しみの離れ難い結び付けをしてしまった。（後略）

### …『方寸』に導かれた青木繁と倉田白羊<sup>はくよう</sup>&英子<sup>ひでこ</sup>夫妻の縁…

『方寸』とは、文学と美術との交流を目指して、創作版画を掲載した美術文芸雑誌です。1907（明治40）年に石井柏亭・森田恒友・山本鼎（かなえ）らが同人となって創刊し、1908（明治41）年に平福百穂・倉田白羊・小杉未醒、1909（明治42）年に織田一磨・坂本繁二郎が加わりました。第5巻第3号まで合計35冊を発行し、1911（明治44）年に廃刊となりました。最終号は、倉田白羊が編集兼発行人となつて、同年3月に28歳で夭逝した青木繁の追悼特集を組み、妻の英子も編集を手伝ったといひます。

倉田白羊（1881-1938）は、親戚にあたる浅井忠の指導を早くから受けており、1901（明治34年）に東京美術学校を主席で卒業しました。妻の英子は旧姓を「小谷」といい、布良の隣村・根本（南房総市白浜町）の出身です。実家は海産物問屋「金澤屋」で、布良にも支店があつたことが最近わかりました。兄たちはカリフォルニア州モントレイに渡米し、器械式潜水のアワビ漁や加工業で活躍しています。英子の実家「小谷」と布良の「小谷」も、同じ漁村のリーダーとしてつながっていたようです。

1917（大正6）年より館山に住み、倉田は富崎小学校はじめ安房の児童自由画教育に尽力しました。1922（大正11）年、自由画教育の先駆者である山本鼎に懇請されて長野県上田市に移住し、日本農民美術研究所の副所長として活躍しています。その後も、全国で自由画教育を実践し広めました。

## 台風被災からよみがえった布良の神輿

『海の幸』のイメージソースになったといわれる布良崎神社の神輿「大天王」が、一昨年の台風被災から修復を終え、再建された神輿蔵に還御いたしました。青木繁も喜んでくれていることでしょう。ご支援いただいた友の会の皆様にも心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス蔓延のため、7月の祭礼は規模を縮小し、祭典のみを執り行いました。白木の神輿はこれから修復になります。来年は、御輿を担げる盛大な祭礼ができるよう祈願しています。

なお記念館が休館のため、複製画作品『海の幸』『わだつみのいろこの宮』『朝日』『海』『海景』は布良崎神社にて展示し、参拝客に鑑賞していただいています。



### 青木繁<海の幸>誕生の家と記念碑を保存する会 事業報告

#### 1. 令和2年度 会計報告

【一般会計】				【特別会計】	
<b>I 収入の部</b>		<b>II 支出の部</b>		<b>I 収入の部</b>	
・友の会 会費	592,000	・記念館管理費	36,203	・前年度積立金累計	300,300
・維持協力金(入館料)	800	・スタッフ経費	41,573	・受取利息	0
・ガイド協力金	10,000	・企画行事	41,861	・一般会計からの繰入金	400,000
・寄付金	262,389	・環境整備	126,425	収入合計	700,300
・その他収入	187,040	・室内整備	10,103		
・火災保険金	29,570	・事務局費	100,000	<b>II 支出の部</b>	
・受取利息	0	・ホームページ管理費	50,000	・補修費	336,380
収入小計	1,081,799	・火災保険	102,340	・特別事業	0
		・交通費	0	支出合計	336,380
・釣り銭(現金)	30,000	・印刷費	20,475		
・前期繰越金	167,623	・消耗品費	17,699	<b>III 特別会計残高</b>	363,920
収入合計	1,279,422	・通信郵送費	71,012		
		・渉外会議費	12,958		
		・予備費	71,028		
		・特別会計への繰入金	400,000		
		支出合計	1,101,677		
		<b>IV 次年度繰越金</b>	177,745		

#### 2. 令和2年度 活動報告

※ 新型コロナウイルス拡大につき1年間休館。

- 瓦補修(台風19号の破損ズレ・北面の瓦補強) 4/2・5/18
- 木の伐採・雨樋の補修・坂の手すり塗り替え 7/10/19~24・11/11
- 「海の幸」記念碑の補修(塩害や台風による劣化) 4/4~8
- 館山総合高校 観光の学び ツアーガイドに協力 11/13
- 戦後75年平和祈念「館山まるごと博物館」展示に協力 @渚の駅ギャラリー 8/8~30
- 青木繁オマージュ色紙展 オンライン開催 12/28~2/28
- 通信販売 オンラインショップ「館山まるごと博物館」
- 布良崎神社の御輿修復および復興イベントに協力

#### 3. 令和3年度 活動計画

- 青木繁「海の幸」記念館(小谷家住宅)の紹介動画の配信
- 庭園の垣根を再作成

オマージュ色紙展は、15万円の売上となりました。作品提供およびチャリティ購入にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今年度の動画制作と垣根づくりに活用させて頂く予定です。

★会費未納の方には伝票を同封いたしますので、ご入金いただけますようお願い申し上げます。